

9月20日
しめきり!!

※消印有効

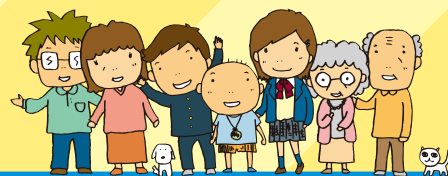


おかねについて
考えることは、
実は自分について
考えることだ。

金融広報中央委員会は、
全国の中学生を対象に「おかねの作文」を募集します。
みなさんの見たこと、聞いたこと、感じたことをもとに
「おかね」について考えてみよう。
キミの応募を待ってるよ!

第47回

おかねの作文 コンクール



特選5編 (賞状と図書カード4万円分)

金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞

秀作5編 (賞状と図書カード2万円分)

■佳作50編 (賞状と図書カード2千円分)

■学校賞 (特選受賞者在籍校) 5校 (賞状と図書カード1万円分)

テーマ:自由

テーマ(作文に書く内容)は、「おかね」に関するものであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えるときの参考として、テーマの例を以下に示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル(題)をつけてください。

★テーマの例

① 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

② 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。

③ 活きたおかねの使い方とは

おかねを使うと、持っているおかねは減りますが、一方で得られる満足があります。おかねの使い方は、その人の価値観やものの考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与える面を持ちます。買い物や貯金などについての、自分自身の体験や、周囲の人のおかねのじょうずな使い方について書いてみましょう。

④ ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねが関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、興味がわいたり、関心を持ったりしたニュースを探してみましょう。

第47回「おかねの作文」コンクール 募集要項

[応募資格] 中学生

[賞] ●特選 5 編(賞状と図書カード 4 万円分)

金融担当大臣賞 / 文部科学大臣賞 / 日本銀行総裁賞 / 日本 PTA 全国協議会会長賞 / 金融広報中央委員会会長賞

●秀作 5 編(賞状と図書カード 2 万円分)

●佳作 50 編(賞状と図書カード 2 千円分)

●学校賞(特選受賞者在籍校) 5 校(賞状と図書カード 1 万円分)

[締め切り] 2014 年 9 月 20 日(土)※消印有効

[発表] 12 月中旬頃、金融広報中央委員会ホームページ(<http://www.shiruporuto.jp/>)などで発表。

[送付先] 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 3F

金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係

※インターネットの専用サイトからも応募できます。下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。 <http://www.ron2014.jp/>

[問い合わせ先] 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-3212-6165 (土・日・祝日を除く 10 時～17 時)

金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ <http://www.ron2014.jp/>



作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと。

金融教育は、現実の社会の中で生きていくのに必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身につけることなどを目的としています。この金融教育は「生活設計・家計管理」「経済や金融のしくみ」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」の4つの分野に分けて整理することができ、「生きる力」の育成にもつながります。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。

金融広報中央委員会とは?

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力を、国民に対し中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの回りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、私たちは本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、去年は全国から3,754点の作品が寄せられ、60点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の回りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



第46回 (2013) 受賞作品の紹介

過去の入賞作品はこちらでご覧いただけます。
<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/sakubun/index.html>

金融担当大臣賞

温故知新を目指して
沖縄県 石垣市立石垣第二中学校 3年
平田 ころもさん

作品の内容 物を大切にすることは人や自分、お金を大切にすることにつながるというのが両親の教えです。「使い慣れたものは生きた思い出を寄り添わせてくれ、生活を穏やかにしてくれる」「無駄のない生活ができるよう工夫を心がけたい」と述べています。家族で行う新聞配達の仕事から充実感や達成感を得て、労働で得た金銭は使い方慎重になり無駄遣いもしなくなるといいます。「丁寧に書かれ、地に足のついた健全な価値観が表現されている」などと評価されました。

受賞者の声 物を大事にすることは家庭で育てられる感性です。いつの時代も当たり前のことであり、人や自分、お金を大切にすることへつながるささやかな幸せであることを受賞で再認識できました。それが世界平和にまでたどりついたら最高だと考えます。

文部科学大臣賞

お金のありがたさ
福岡県 川崎町立川崎中学校 3年
徳重 優花さん

作品の内容 親元で暮らす自分たちはお金のありがたみが本当に分かっているのか、との問題意識から出発。歯科医院での職場体験を通じて、自分から仕事を見付けて体を動かすことや、集中して働くことの重要性を痛感し、両親や祖母の苦勞が少し分かったと述べ、「目的に向かってお金を貯めることができる計画性を身に付け、お金のありがたさ分かる大人になりたい」と結論づけています。「職場体験などの経験をもとに、しっかりと考えている」などと評価されました。

受賞者の声 職場体験を通して、社会に出て働いてお金の得ることが自立につながるということを身をもって感じました。今後も、1円の重みを大切に、お金に対して計画性を持った自立した大人になれるよう日々頑張っていこうと思います。

日本銀行総裁賞

我が家の経済学
東京都 筑波大学附属中学校 1年
牛嶋 友誠さん

作品の内容 筆者の家庭には、「お父さん銀行」という、お金を預けると毎月利子が付くシステムがあります。筆者は小遣いをコツコツそこに貯金し、2年半かけて2万円のゲーム機を入手。ドル買い・円売りでの利益でポータブルオーディオプレイヤーも手に入れ、その過程で投資のリスクも学びます。こうした経験から将来独りで生活していくために必要な力が付いてきているといいます。「独自の体験を興味深く記述している」「金融・金銭教育の面白さが伝わってくる」などの点が支持されました。

受賞者の声 「お父さん銀行」という制度を通して、お金の大切さや、稼ぐことの大変さ、お金の使い道を教えてくれた両親に感謝しています。これからも世界的情勢に目を向け、さらに豊かな生活を送れるよう、グローバルな感覚を養ってきたいです。

日本PTA全国協議会会長賞

銀色のペットボトル
鹿児島県 ラ・サール中学校 2年
大山 農さん

作品の内容 4年前、父に買ってもらった、ペットボトルに取り付けるタイプの1円玉貯金箱に集めた1円玉が6,000枚たまりました。一人で持ち上げられないほど重い1円玉6,000枚と、風に飛ばされる1,000円札と5,000円札が同じ価値だと思つと、お金を慎重に使うようになる、と綴ります。単にお金をため込むのではなく、必要性を見極めてお金を適度に使うべきだとも述べています。「お金をためることから使い方まできっちりと考えている点」などが高く評価されました。

受賞者の声 「1円銀行」という貯金箱を買ってもらったことで、1円という小さな価値の大切さや、貯金の大切さがわかりました。1円を大切に、有意義な使い方ができる大人になりたいです。

金融広報中央委員会会長賞

留学と私
東京都 東京都立大泉高等学校附属中学校 3年
長谷川 椋奈さん

作品の内容 留学の実現経緯を通じ、費用支援してくれる祖父や日頃働いて生活を支えてくれる両親への感謝の気持ちを語っています。公民の授業で習った「価値の尺度」を思い出し、商品の場合は値段が尺度になるが、「どれだけ多くのことを学び、どれだけ成長できるかでお金(留学費用)の価値が決まる」と述べ、「費用以上の価値」を「私の心の中に貯められるよう一生懸命頑張りたい」と誓います。「自分の夢を語りながらお金の価値を考えている」などの点が評価されました。

受賞者の声 作文を書くことでお金の価値について深く考えることができました。改めて、家計を支えてくれている両親や祖父母への感謝の気持ちを持ち続けたいという思いを持ちました。実際の留学でも、払ったお金以上のことを学んで、更に成長したいです。

秀作

「お金の表情」
神奈川県 洗足学園中学校 1年
西 由愛花さん

「募金から学んだこと」
鹿児島県 ラ・サール中学校 2年
西富 琉之助さん

「生きたお金の使い方」
千葉県 日出学園中学校 3年
中西 郁さん

「お金の価値」
愛知県 名古屋市長東中学校 3年
中田 智也さん

「お金の持ち主」
大阪府 吹田市立南千里中学校 3年
渡 春奈さん

学校賞

沖縄県 石垣市立石垣第二中学校
福岡県 川崎町立川崎中学校
東京都 筑波大学附属中学校
鹿児島県 ラ・サール中学校
東京都 東京都立大泉高等学校附属中学校

第46回
審査員
(敬称略)

大野 仁(金融庁総務企画局政策課課長補佐) 永井 克昇(文部科学省初等中等教育局視学官) 尾上 浩一(公益社団法人日本PTA全国協議会会長)
新飯田 潤一(全日本中学校国語教育研究協議会会長) 橋口 和(日本銀行情報サービス局金融広報課長) 平沢 光弘(金融広報中央委員会事務局次長)

